

● ジョン・トッド牧師の手紙



昔、アメリカのバーモント州に、ジョン・トッドと言う有能な牧師がいました。この人は6歳の時、両親が亡くなってしまい、子供たちは引き裂かれ、別々の親戚に引き取られて行きました。ジョンを迎えてくれたのは、15キロも離れた処に住んでいた優しい伯母さんでした。ジョンをととても可愛がり、よく面倒をみてくれましたので、我が家同然でした。

こうしてジョンは15年間伯母さんと暮らし、その後、家を離れて牧師になるために学び、牧師となって力ある働きをしました。

彼が中年になった頃の事、年老いた伯母さんから手紙が届きました。重い病に倒れ、もう回復の見込みはないという悲しい知らせと、今、死の恐れと不安の日々を送っているという文面でした。気の毒に思ったトッド牧師はすぐ伯母さんに手紙を書きました。

伯母さん。

私が六つの時、ひとりぼっちになって、世の中に放り出された時から35年になります。伯母さんが私を引き取って母親になって呉れると言ってくれて、伯母さんの家に向かって15キロの旅をしたあの日の事を、私は決して忘れません。

伯母さんは迎えに来てくれず、黒人のお手伝いさんがやって来たので、がっかりしたこと、馬の背に乗り、お手伝いさんにしがみついて家に向かった時、私は悲しみと不安でいっぱいでした。陽は落ちてあたりは暗くなり、さびしくて、怖くて、仕方がありませんでした。

「伯母さんはもう寝ちゃってるかな」とお手伝いさんに聞くと、

「飛んでもない。伯母さんはあなたがお着きになるまで起きておられます。もうすぐ家の窓明かりが見えてきますよ。」

やがて森を抜けると、その通り、ローソクの灯が見えて来ました。そして伯母さん。あなたは家の入り口に立って待っていて呉れました。私の姿を見ると走り寄って手を差し伸べ、私を抱き上げて馬から降ろしてくれました。暖炉には赤々と火が燃え、テーブルには温かい夕食が並べられていました。夕食が済むと、私を新しい部屋に連れて行ってきて、一緒にお祈りをし、私が眠りにつくまで側に居て下さいました。

伯母さん。なぜこのような事を今あなたに思い出して欲しいのか、お分かりですね。間もなく神様は使いの者を伯母さんのために寄越し、新しい家に迎え入れてくださいます。その時を、その旅を、恐れたり、死の使者を怖がったりすることはありません。

35年前、あなたが私にして下さったように、今度は神様が伯母さんのためにして下さいます。どうぞ信じて下さい。あなたの旅の終わりには、心温まる歓迎があなたを待っています。

ジョン・トッド